



編集・発行  
 児玉源太郎顕彰会  
 〒745-0874  
 山口県周南市公園区5854-41  
 周南文化協会 内  
 TEL. 0834-22-8190

印刷 (株) 精文社  
 山口県周南市若宮町1-55  
 TEL. 0834-21-1611

令和の時代 新体制で着々と  
 児玉源太郎顕彰会

児玉源太郎顕彰会の活動は4年が過ぎようとしています。令和の時代の幕開けとともに昨年5月の元年度総会で初代会長を務めていた元徳山市長の小川亮さんの後任として山下内科医院院長で理事の山下武右さんを選出、新体制が動き始めました。この1年を振り返ると、さまざまな事業を展開してきました。

会報「藤園」4号を総会に合わせて5月25日付で、ニュースレター「本丁通信」5号も11月15日付で発行しました。7月21日に第3回「藤園忌」の茶会と邦楽演奏を周南市文化会館で、命日の24日は児玉神社（黒神直大宮司）で命日祭、そのあと菩提寺の興元寺（金

子清学住職）で墓前供養をしました。7月から9月まで「藤園忌」にちなんだ俳句を募集、表彰式と選者の久行保徳さんによる記念講



会報「藤園」4号とニュースレター「本丁通信」5号



児玉源太郎の遺徳をしのぶ第3回藤園忌茶会

演会を10月19日に開催しました。126人から347句の応募があり、特選3点、入選10点、佳作17点の計30作品を決定しました。

新たな事業として児玉の生涯とその時代を描くDVD制作にも挑戦、令和2年度にかけての2か年計画で児玉源太郎の生涯を全3巻にまとめます。「児玉源太郎 未来を築く」と題したDVDは今年秋までに完成、地元の学校や市民センターなどに寄贈し、普及を図ります。

11月30日には周南市一ノ井手の興元寺墓地の一角に児玉源太郎遺髪塔の案内板を設置、訪れる人が迷わないようにしました。児玉ゆかりの地を訪ねる第2回台湾の旅は3月6日から8日まで台北、台



児玉家墓地・児玉源太郎遺髪塔での第3回藤園忌墓前供養

中、台南、高雄のコースを予定していましたが、新型コロナウイルスの感染が拡大する中で延期、今年秋頃に再度計画したいと考えています。

山下武右会長は「初代会長の小川亮さんが立派な礎を築かれたので、その精神を受け継いで事業に取り組んでいます。顕彰会の活動がまちづくりをはじめ、いろんなところに影響を与えて公に生きる志を次世代に伝えていきたい」と話しています。

※DVD制作「児玉源太郎 未来を築く」や児玉源太郎遺髪塔案内板の設置、第2回台湾の旅延期については別頁で詳細を掲載していますのでご覧ください。

## 令和の時代 コロナ騒動 児玉&後藤はいないのか

### 児玉神社例祭にて思うこと

西崎博史

中国・武漢に端を発した新型コロナウイルスの感染が拡大、アジアから世界へと蔓延して地球規模で世界を揺るがしています。学校の休校をはじめ、催しの中止や延期、施設の休館、さらには経済活動もいろんな制約を受けて大きな支障をきたしています。一日も早い終息が待たれます。

このような中、周南市児玉町にある児玉神社（黒神直大宮司）の例祭が3月10日行われました。いつもは拝殿に参列、一堂に会して参拝していましたが、今年は一入ひとり参拝に上がり、玉串を受け取って捧げました。参列者は神社責任員の林靖彦さん、松下博宣さんをはじめ、児玉源太郎顕彰会会長の山下武右さん、副会長の岡田幹矢さん、藤井英雄さん、小野英輔さん、理事の赤坂徳靖さん、梶山正一さん、原田茂さんら25人。直会として児玉源太郎の庵にちなんだ和菓子の最中「三五庵」が用意されました。黒神宮司ら神職と責任役員と同席で祝詞が奏上され、

御祭りが滞りなく執り行われました。

黒神宮司からのご参拝の御礼状には感謝の言葉が続いて次のような一文が認められていました。



児玉神社例祭 参拝する山下武右会長(右が黒神直大宮司)

さて、国を挙げて新型コロナウイルス対策に取り組んでおりますが、折しも後藤新平の活躍に思いを馳せる方も多いのではないかと思います。

今から125年前の日清戦争後、コレラなど伝染病が蔓延する中国大陸より23万人の兵士の帰国検疫という非常事態に抜擢されたのが、医師であった後藤新平です。

後藤は、広島に大規模な検疫所を開設して陣頭指揮にあたり、3か月で23万人の検疫を見事に成し遂げました。その働きが陸軍検疫部長であった児玉の目に留まり、後に児玉は台湾総督となるや後藤を民政長官に抜擢し、台湾での「児玉・後藤政治」が行われたのであります。

今の日本の様子を見て、台湾の人々が「今の日本には後藤はいないのか」と言ったと聞きます。児玉と後藤は、まさに非常事態に功を成した人であり、いつの時代も非常時にどのような働きができたのか、それが真の人の価値だと二人の生き様が伝えているようです。

時宜を得たご挨拶に感銘を覚えました。児玉は後藤が手腕を発揮できるように陸軍将校らを統制するなどの配慮をするとともに、全員に検疫を受けさせるために陸軍大将の小松宮彰仁親王を説いて率先して検疫を受けてもらい一大事業を完遂するなど、軍隊という階級組織を熟知した対応はさすがです。

産経新聞1面「令和の後藤新平いないのか 台湾で揺らぐ『日本衛生神話』」(2月22日付 元台北支局長・河崎眞澄)や毎日新聞オピニオン9面「コロナウイルスと



コロナウイルスへの方策を探る各紙

の対話」(3月7日付 編集委員・伊藤智永)、読売新聞解説11面「仁王立ちで立ち向かえ」(3月7日付 特別編集委員・橋本五郎)、朝日新聞総合3面「見えぬ恐怖『誠実さ』で闘う」(3月8日付 編集委員・大野博人)など各紙は100年前に世界中を襲ったスペイン・インフルエンザなど過去の事例を紹介しながらその方策を探ります。

政治、医学、経済をはじめ、国民すべての力を結集、世界各国との連携を踏まえてのそれこそ地球規模での総力戦です。力を合わせて乗り切るための知恵が求められています。

(児玉源太郎顕彰会事務局長)

児玉源太郎顕彰会では、児玉源太郎が生きた時代とその生涯を描く、DVD制作に令和元年度から2年がかりで着手しました。明治から152年、戦後からでも75年が経ちます。世界の中で日本がどう動いたのか、先人たちの苦闘の歴史を伝えることが求められます。日本や世界の将来を背負う若者たちへ伝え、未来を切り拓いてもらいたいと企画しました。制作は山口放送、特別協賛はトヨタカローラ山口（下部博文代表取締役会長）です。



児玉源太郎（周南市美術博物館所蔵）

次世代への継承 DVD制作  
「児玉源太郎 未来を築く」



完成した第1巻DVD

れ、西南戦争、台湾総督、日露戦争、明治政府にあって、政治家として軍人として国家の運命を背負って生きてきました。その生涯を、今を生きる学びの場として伝えます。次世代への贈り物です。DVDは全3巻。第1巻「徳山藩に生まれる」、第2巻「戦場の青春」、第3巻「世界の中の日本」。ふるさとの地を中心に、お家の断絶と再興など苦境を乗り越えては

ばたいていく姿を紹介した第1巻はすでに完成、今は第2巻の制作に入っています。佐賀の乱から日清戦争の終結まで、近代化の大きな課題を抱えながら不平士族の反乱を抑え、明治政府の軍隊を整えて帝国憲法発布、日清戦争へとたどる中で児玉源太郎が果たした役割を描きます。日清戦争のあと、大陸からの軍人二十数万人の検疫は一大事業でした。児玉源太郎や後藤新平は手腕を発揮して国民の生命と暮らしを守りました。第3巻は台湾の統治や日露戦争を通して児玉源太郎が目指した国家、世界の中での日本の役割と使命などを伝えます。



先駆的な活動をした児玉文庫



児玉源太郎が学んだ旧藩学館跡。今の徳山小学校

9月には全巻完成させて周南市の小学校、中学校、高校、大学、各地の市民センターに贈呈します。制作には山口放送があたり、これまでの映像に新たに取材する映像を加えて子どもから大人まで分かりやすく編集します。企画の趣旨、鑑賞の仕方、ゆかりの地マップなどをまとめた解説書を作成して添付、鑑賞の手助けとします。制作費用全額をトヨタカローラ山口が支援します。

児玉源太郎顕彰会会員の皆様にも希望者には頒布したいと考えています。詳細は全巻完成した段階でご案内します。どうぞお楽しみ。

新 刊 紹 介

「李登輝の偉業と西田哲学」

「台湾の父を思う」

元京都大学教授 柏久

生涯をかけて台湾の民主化や国際社会における地位の確立を進めてきた李登輝氏。1988年から12年間の総統時代、6回の憲法改正や総統直接選で成し遂げてきました。

李氏は日本統治時代の台湾で1923年(大正12)1月に生まれ、旧制の台北高校を経て京都帝国大学で農業経済学を専攻。京都時代の恩師が著者、柏久さんの父親、柏祐賢氏で、李氏は「友人もなければ、頼る人もいない、そのような不安な学業生活を送っていた私に、柏先生は、学問はもちろんのこと、人の在り方や人の生き方も教えてくださり、さらに元氣と勇氣を与えてくださいました。永遠に23歳のまま、僕は柏祐賢先生の学生なのです」と語ります。京大教授の父から薫陶を受けて同じく京大教授になった久さんも農業経済学の道を歩みました。父と李氏を強く結びつけたのは

何であったのか。その心のつながりに関心を抱いた久さんがたどりついたのが西田哲学。京都学派に脈々と流れる西田幾多郎の哲学です。西田は大正時代に京都帝大で教えた日本を代表する哲学者の一人で、彼が散策した、京大から南禅寺界限に到る道は今も「哲学の道」として親しまれています。1911年に出版された「善の研究」は戦前の旧制高校生の必読書でした。



児玉神社境内の李登輝石碑



李登輝の偉業と西田哲学

久さんは「政治家として矛盾する理想と現実をどう結び付け、解決策を探していくか。李登輝先生の民主化プロセスを振り返ると自分や父、京都に脈々と流れる西田哲学の実践、と受け止められる」と結論づけます。

李氏は2000年5月に総統を退任したあと、しきりに「我は不是我的我(私は私でない私)」と語っています。産経新聞論説委員兼編集委員の河崎真澄さんが同新聞で長期連載した「李登輝秘録」の中で、難解な言い方だが、「私のため」に生きるのではなく、「公のため」に尽くすのが「私だ」と悟ったと李はいう。「死を認識して初めて、どう生きるかを考えることができる」とも付け加えた。図らずも総統になった李は、「私」を捨てて台湾のために働くことだけを考えていたというのだ、と紹介しています。

2004年暮れ、李氏は来日、恩師の柏祐賢氏と61年ぶりの再会を果たしました。その折、石川県かほく市の西田幾多郎記念哲学館にも足を運びました。A5判226頁。1500円(税別)。産経新聞出版。2019年10月25日初版。(児玉源太郎顕彰会事務局長・西崎博史)

鎮南山臨濟護国禪寺故事  
小冊子にまとめる

金子 展也

日本統治時代の神社「台湾に渡った日本の神々」(潮書房光人新社)を一昨年5月にフィールドワークでまとめた金子展也さん(さいたま市在住)がこのほど、台北市の「市指定古蹟」に指定されている鎮南山臨濟護国禪寺の故事を小冊子(非売品)にまとめました。

A5判40頁。児玉源太郎が開基した臨濟護国禪寺の由来、臨濟宗妙心寺派領台期の活動、台湾総督の児玉源太郎、民政長官の後藤新平の活躍、臨濟護国禪寺に残る遺構と遺物に章立てしています。小冊子によると、臨濟護国禪寺の建立には児玉が深く関わっていて鎮南山は児玉の七言絶句から命名。「今後とも調査を継続していきたい。日本の歴史遺産として末長く記録として残すべきで可能なら台湾でガイドブックとして出版できれば嬉しい」と金子さん。乞うご期待です。



「鎮南山臨濟護国禪寺故事」

歴史を未来につなぐシンポジウム

台湾と山口とのつながり 過去 現在 未来

# 台湾と山口

11月24日(日) 16:00-18:00

周南市立徳山駅前図書館3階 交流室2

入場無料 定員80名

討論者 **西崎博史** **福屋利信**

パネリスト

主催：オフィス・Small Town Talk、周南市立徳山駅前図書館

歴史を未来につなぐシンポジウム

## 「台湾と山口のつながり」報告

山口学芸大学 教授 福屋利信

令和元年11月24日に周南市立駅前図書館で行われたシンポジウム「台湾と山口とのつながり」過去、現在、未来」のコンセプトは、過去の検証と現在の分析は、未来につながるこそ価値が生まれるという考え方 (mindset) に立脚していた。

台湾の親日感情の源泉は、李登輝元台湾総統に「児玉翁は台湾の大恩人」と言われしめ、台北のインフラを整えた児玉源太郎の治世と嘉南大圳と呼ばれる嘉南平野一帯に細かくはりめぐらされた水利設備を作った八田與一に辿れると言っても過言ではない(八田の人氣は、近年行われるようになった「台湾で有名な日本人ランキング」では、歴史上の人物で唯一人毎年ベストテンにランキング入りする



福屋利信さん

八田の高認知度に比べて、このままでは歴史の中に埋もれてしまいうような児玉源太郎の台湾への貢献を、あらゆる機会を捉えて、台湾の若い世代に伝えたいと思っている。客員教授をさせて貰っている開南大学や高雄師範大学での集中講義では、児玉の偉業を未来につなげるためのささやかな営為を続けている。同時に、もともとつと地元である周南で児玉翁の偉大さを知って貰いたいと思う気持ちもある。今回のシンポジウム開催は、後者の思いの発露であった。

シンポジウム第1部の「過去」では、西崎博史・児玉源太郎顕彰会事務局長に、児玉源太郎と徳山とのつながりの深さを論じて貰った。第2部の「現在」では、私が香港の不安(一つの中国への不安)を共有する台湾の人々の心情を解

説した。そして、第3部の「未来」で、山口大学国際総合科学部「課題解決型学習プロジェクト」(PBL)の学生が、美祢市への台湾からの観光インバウンド増を狙う活動の一端を披露してくれた。

歴史を未来につなぐという、このシンポジウムのコンセプトの中心を担った学生の発表は、自分たちで撮影した美祢市の秋吉台、秋芳洞、弁天池等の観光地紹介を台湾にアピールする映像で構成されていた。全員が台湾に1年間の留学経験のある学生からなるプロジェクトの特徴を生かして、学生たちの手による中国語の字幕が添えられており、そのことにより、他の観光PVとの差異化が図られていた。その動画を「プロトタイプ」として、台湾を代表するテレビ局である中天電視に自分たちで売り込みをかけ、最終的には、テレビ局のスタッフが美祢で映像を撮り直し、放送する計画だと言う。大人なら「そんなの無理だよ」の一言で諦めるところだが、それをいとも簡単にやってのけた怖いもの知らずの行動力には、フロアの誰もが驚いていた。彼らの発表は、シンポジウムを大いに盛り上げた。加えて、歴史が未来につながったと思っただ瞬間でもあった。

# 六十の手習い 俳句への道

徳山医師会病院 顧問兼副院長 中村 和行

中国を発したコロナウイルスの感染拡大により、世界中で感染の封じ込めに右往左往しています。WHOの事務総長は、3月10日の時点で未だにパンデミックとは報道していませんが、悠長なことは言えない状況になりつつあります。

特に、高齢者や基礎疾患のある方がコロナウイルス感染で重症化した場合には重篤な肺炎を起こし肺の機能が失われるため、集中治療室（ICU）でECMOを使った治療法が効果的に使われる必要があります。ECMOとはExtra Corporeal（体外式）のMembrane（膜型人工肺）によるOxygenation（酸素化の略称で、血液を体の外で循環させて人工の肺に送り込み、酸素を血液に取り込ませる方法ですが、全国でECMOを使える医療機関が限られているため、重症化した感染者を救命するには、今後の感染拡大を最小限に抑えることが鍵になります。

感染拡大を抑え込むには感染者との接触を可能なかぎり抑えるこ

とですが、無症状の感染者も多くいると考えられますので、外出時にはマスクの着用と外出後の手洗いの徹底が大切です。ただ、感染者をことさら差別するような行為や感染を意図的に拡大しようとするような非倫理的な行為は厳に慎むべきです。

さて、児玉源太郎顕彰会は、山下武右会長の下に新たな船出をしました。会長はじめ理事や事務局の皆様の益々のご健勝とご活躍を期待しています。筆者も設立当時から会員に加えて頂き、顕彰会の主催による俳句大会では筆者の句が入選したのをご縁に頂き、俳句を六十の手習いとしています。

その俳句大会の表彰式が周南市文化会館で行われた折に、隣席に居られたのが村上禮子さんでした。彼女は、句会「つゆくさの会」を主宰されておられましたので、筆者も句会に入会することになりました。月に一度、村上先生のご自宅で句会が開かれます。会員は女

性ばかり、筆者は黒一点となりましたが、皆さんには息子や弟のように可愛がっていただきます。句会が始まりますと、短冊一枚に一句、会員がそれぞれ詠んだ5句から6句をしたためます。それを皆で回して記録帳に写します。その後、各自が佳作と思われる句を詠み上げ、村上先生の最終評価を受け、添削して頂きます。詠む方も詠まれる方も真剣勝負です。村上先生は佳句を褒めてくださいますが、駄作には厳しく、特に季語については徹底的に鍛えられます。叱られている小学生のような気分です。

句会が終わるとお茶と先生や会員の皆さんが持ち寄られた菓子が振舞われます。正月には、村上先



生の手作りおせちを賞味させていただきます。「つゆくさの会」の会員となつて筆者の俳句の腕は上がったように思いますが、村上先生のお気に入りには自ら俳画をつけて頂きます。その俳画をご覧ください。先生のお墨付きではありませんが、齢を重ねると抑制が効かなくなることをお許しください。

## 「藤園忌俳句」余話

中村和行さんの俳句「文月に賢人 偲ぶ藤園忌」は第1回の「藤園忌俳句」でいきなり入選しました。俳句を詠んだことはほとんどない中で入選に驚いたのはご本人でした。

同じ第1回に応募した「藤園忌五葉の松風爽やかに」（初代会長の小川亮さん）、「お点前に筆の音涼し藤園忌」（当時理事で現会長の山下武右さん）、「瑠璃碗に薄茶際立つ藤園忌」（事務局長の西崎博史さん）、第2回応募の「夏の空満州向いて遺髪塔」（理事の吉原雍さん）ら顕彰会役員の作品はことごとく落選しました。

吉原さんは昨年3月発行した「未来の君たちへー明治維新百五十年回想と顕彰ー」で「藤園忌俳句」落選記を綴って読者を楽しませてくれました。落選があるからまた入選もあるのです。会員の皆様もぜひ挑戦を！

事務局より

第2回台湾の旅 延期へ

児玉源太郎の足跡をたどる第2回台湾の旅は3月6日から8日まで実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、延期することになりました。情勢をみながら今年秋に再度計画したいと考えています。

会員からの強い要望で昨年2月15日から3日間、初めての台湾の旅を実施しました。第4代総督児玉源太郎と民政長官後藤新平が活躍した舞台の中心地、台北市に絞って企画、総統府や台北賓館、国立台湾博物館などに焦点をあてました。第2回は台北の児玉源太郎遺髪塔が残る臨濟護国禪寺、国立台湾博物館、台湾の小京都と言われる台中では台中公園や旧台中州庁、旧台中市役所、台南の林百貨店、国立成功大学、高雄の台湾糖業博物館などを訪ねる予定でした。

参加を予定されていた方をはじめ、児玉源太郎顕彰会会員の皆様にも改めてご案内します。どうぞお楽しみに。

後藤新平顕彰会と交流へ

第4代台湾総督の児玉源太郎が民政長官に抜擢したのが後藤新平。児玉の後ろ盾を得て後藤は手腕を發揮、新渡戸稲造を起用して製糖業に着手するなど台湾の近代化に大きく貢献しました。

後藤のふるさと、岩手県奥州市(旧水沢市)に平成14年5月、後藤新平顕彰会が設立されました。後藤新平記念館に事務局を置いた顕彰会は、6月4日の生誕祭、ゆかりの地訪問、年2回の会報「後藤新平顕彰」発行、奇数月開催の輪読会をはじめ、資料収集や提供、関係機関との交流、次世代を育てる「顕彰塾」など幅広い活動を展開しています。

児玉源太郎の資料調査研究を進める周南市教育委員会スタッフが2年前に後藤新平顕彰会を訪ねたのをはじめ、昨年暮れには児玉源太郎顕彰会として会報「藤園」やニュースレター「本丁通信」、明治150年記念事業で刊行した「未来の君たちへー明治維新百五十年回想と顕彰ー」など設立以来の資料一式をお届けしました。早



後藤新平顕彰

速お礼のご挨拶とともに後藤新平顕彰会の会報、後藤新平記念館パンフレットが届きました。お礼状は「今後、さまざまなイベントや情報等で交流を深めていくことができれば幸いに存じます」と結んでありました。

機会を作って後藤新平のふるさと、奥州市を訪ねる旅を実施してみたいと考えています。

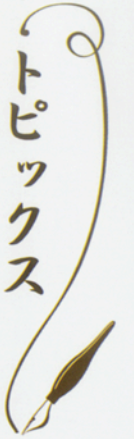
**令和2年度会員  
4月から募集スタート  
継続会員もどうぞ手続きを!**

児玉源太郎顕彰会も令和2年度はいよいよ5年目です。7月24日を児玉源太郎の命日と定め、その遺徳をしのんで始めた「藤園忌」も4回目を迎えます。児玉神社の命日祭、菩提寺の興元寺の墓前供養、邦楽を聴きながらの茶会、俳句の募集もすっかり定着してきました。児玉源太郎忌日としての「藤園忌」が、いざれ「歳時記」に夏の季語として掲載されればと思います。

昨年1月16日に初代会長の小川亮さんが逝去、5月25日の令和元年度総会で理事の山下武右さん(山下内科医院院長)が2代目会長に満場一致で選任されて新しい体制で動き始めました。小川さんが築かれた盤石の礎の上に積極的な活動を展開しています。役員会で令和2年度事業計画と収支予算案を協議し、5月23日(土)の総会にお諮りします。元年度の事業報告と収支決算もお示しし、会報「藤園」第5号も総会に合わせて発行します。

「藤園忌」茶会は7月19日(日)に周南市文化会館3階展示室で、児玉神社と菩提寺の興元寺へは命日の7月24日(金・祝)にお参りします。俳句は今回から1か月早めて6月と7月で募集します。

皆様方には令和2年度会員の継続と、新規会員への呼びかけもご協力ください。声を掛け合うことで輪が広がります。



### 児玉源太郎遺髪塔

#### の案内板

児玉源太郎顕彰会は昨年11月30日、周南市一ノ井手の通称・隠居山墓地に児玉源太郎遺髪塔の案内板を設置しました。児玉家の菩提寺、興元寺(金子清学住職)の墓地の一角にあります。訪れる人が迷わないように児玉家の墓所とともに図示、興元寺の協力を得て30万円で据え付けました。

アルミ製の案内板は縦90センチ、横65センチの屋根付き。支柱を加えた地面からの高さは150センチあります。「児玉家墓所 児玉源太郎遺髪塔」と記し、約20センチ先の場所を地図に落としています。児玉が55歳で急逝すると遺髪だけが戻り、塔に納められました。墓所には遺髪塔と児玉家累世墓、義兄で幕末に徳山藩内の争いで殺害された徳山七士の一人、次郎彦、源太郎の姉久子夫妻の墓があります。

児玉源太郎顕彰会では、これまで告知板を岐山通の「児玉源太郎生誕の地」と児玉町の児玉神社境内の2か所に設置しています。



児玉源太郎遺髪塔の案内板

### 山縣有朋記念館と児玉源太郎

片山 園江

2月11日に山口放送で放映された「はじめまして！一番遠い親戚さん」という番組で山縣有朋記念館が紹介されました。記念館の2階に山縣有朋や乃木希典らと一緒に収まっている児玉源太郎の写真が展示されています。

私は、昨年6月に栃木県を旅行した折、偶然にもその写真を見つけて感動しました。顕彰会事務局の仕事をしていて、関心を持っているから「発見」できたと思っています。

児玉源太郎と同じ時代を生き、明治新政府の礎を築いた山縣有朋に興味をお持ちの方はぜひ栃木県矢板市の山縣有朋記念館をお奨めします。

(児玉源太郎顕彰会事務局)

### 編集室より

#### もし児玉源太郎が生きていたら？

中島 進

日本全国の小中学校が休校する異例の事態に加え、町中からマスクが姿を消すなど市民生活も不安が満ちています。新型コロナウイルスは終息の気配もありません。この「本丁通信」が届く頃はどんなことになっているのやら。もし児玉源太郎がこの時代に生

きていたら、どんな方策を考えていたでしょうか。こういう時こそリーダーの聡明な決断と勇気が必要とされるのだらうとつくづく思われます。会員の皆様が感染しないように、次の顕彰会の集まりまでに終息しますように。

(新周南新聞社代表取締役社長)

### 坂の上の雲

#### ミュージアムへ

松本久美子

愛媛県松山市にある坂の上の雲ミュージアム。2月22日から、「『坂の上の雲』のひとびと」と

題した展覧会が始まりました。主人公である秋山好古、真之兄弟、正岡子規をはじめ、陸羯南、東郷平八郎、児玉源太郎、小村寿太郎、金子堅太郎など、司馬遼太郎の『坂の上の雲』に登場する人びとの実像に迫る展示内容です。

また秋山家・正岡家の女性たちにも焦点があてられています。この展覧会には、周南市美術館で収蔵する児玉源太郎ゆかりの品も貸し出しています。機会があればぜひ松山へ。会期は来年2月14日までです。

(周南市美術館学芸課長)



山縣有朋記念館パンフレット